

令和6年3月21日（木）に、『第20回 いっそう元気！東近江』を開催しました。第19回の懇談で出ていない課題や気になることを中心に、「やってみたいこと」や「ワクワクできそう」なことを話し合いました。

5グループに分かれ懇談を行いました。各グループで出た内容をカテゴリー別に分けてまとめています。



駐車場所と福祉サービスへの理解



❖訪問サービスの駐車場問題

- ・前回、利用者訪問時に駐車場がない…という話が出ていた。滋賀県社会福祉学会で草津市社協が第2層協議体と協働し、サービスを利用するというところへの理解を広げ、駐車場問題を解決する事例を報告されていた。
- ・ただ駐車場問題を解決するだけではなく、サービスの必要性を理解してもらい、その解が普段の見守りへつながっているのがポイントだと感じた。

❖専門職 SOS コーンの設置

- ・こども110番のように「専門職さん（ヘルパーなど）停めてください」コーン設置運動をすすめたい。企業や事業所も「これならできる」と思っていただけではないか？



つながるより先に“知り合う”

❖つながるより先に住民と専門職が互いを知り合うことが必要

- ・専門職との関わり方をわからない人も多い。頼むとお金がいるというイメージもある。
- ・サービスを利用すると、地域でのつながりが切れてしまう傾向のことも知って欲しい。協議体セミナーでは、住民活動者も同じことを感じておられた。
- ・専門職も住民の暮らしぶりや住民主体の活動を知らないし、理解できていない。利用者にはサービスを通しての関わりしかできていない。専門職も地域を知り、地域づくりの活動を理解することは必要。



地域の活動を応援

❖『ちょっときてえな講座』の福祉版のような人財バンクのしくみづくり

- ・専門職が地域で出かけて、サロンなど地域活動を元気にできないか…
- ・専門職ばかりではなく、支援を受けながら豊かに暮らす当事者からも話をしてもらえとがんばって暮らしている姿を知ってもらい印象にも残る。当事者の役割にもなる。

社会福祉法人東近江市社会福祉協議会

～誰もが支援が必要かどうかに関わらず、自立して心豊かに暮らし続けることができる地域づくり～



高齢男性の居場所+働く機会



❖地域の集いの場は男性の参加が少ない

- ・サロンなど地域の集いの場は、男性の参加が少ない。
- ・仕事など役割がある場だと参加がしやすい。働いてお金がもらえるという条件は参加のきっかけ、動機になるのだと思う。

❖農業を通じた地域活動

- ・「農業で活躍」という考え方を今後も広げていく必要がある。御園のように地区の中で継続していける形を検討できるとよい。

・「農業で活躍」という考え方を今後も広げていく必要がある。御園のように地区の中で継続していける形を検討できるとよい。

・いっそう元気！ひがしおうみで協議、検討したことを2層協議体に広げていきたい。



“〇〇がやりたい”がメインで考えられる仕組みづくり

❖何かしたい人と、してほしい人が気軽に繋がって、みんながイキイキできる地域に

- ・企業やまち協などで、ちょっとした仕事を頼みたいが、そのためだけに人を雇ったり、募ったりするのが難しい状況がある。
- ・お味噌の小分け作業も短期の仕事であるため、需要が少ない。愛東では、働きづらい方たちの仕事として受けている。
- ・何かきっかけがあれば能力が発揮できる人もたくさんいる。そのきっかけをつくれないか。
- ・草引きやネギの収穫など、東近江で募集するボランティアやちょっとしが仕事と、やりたい人が気軽につながれるマッチングアプリをつくれないか。名前は「ちょっとたすけてーなアプリ（仮）」。
- ・高齢の方だけでなく、長年就労経験がない人にとっても、外に出たり、人とつながれる機会になれば。

❖居場所づくりをしたい人同士をつなぐしくみ

- ・担い手不足の話がある一方で、何かしたいという人は地域に結構いる。子育てを終えた方たちで、何かしたいと思っている人たちもいる。集いの場をつくりたいという人たち同士でコラボして、何かできないか。



避難支援

❖防災を切り口につながりづくり

- ・困っている人のこと、つながりや助け合いのことを話すと、防災を切り口にとみんな考えてくれ、話が進みやすいと思う。能登半島地震をきっかけに、地域の若い人で「助け合えるのは隣近所」と話しておられた。若い人もそのように感じているということが分かった。



暮らしの困りごと